

The Real Face

"King of Kings Lord of Lords  
The Conguering Lion of The Tribe of Judah"

SHANDI-I (シャンディアイ)  
'85年生まれ、京都府京都市出身、シンガー、ソングライター、サウンドシステム・オペレーター、シンガー、スカバンド「THE TOWN BOYS」のリードボーカルとしてキャリアをスタート、ジャマイカサウンドに出会い、後にABA-SHANTIのジャパンツアー、FUJI ROCK祭を受け、'09年にはABA-SHANTIのジャパンツアー、FUJI ROCK FESTIVALにも出演、シングル「INNA SANCTUARY」がロンドンのFM各局でオンエアされ大反響を呼び、ヘビローダーやMDの経歴を経て'97年、北山に「VIBES COLLECTIVE」を出店、さらに今年3日には、両店を統合した「Strictly Vibes」を移店オープン。  
誕生「Strictly Vibes」を移店オープン。  
http://www.shandi-i.com

前ページにもあるように、今、日本では大阪と横浜がレゲエ色の強い街だと言われる。そして京都には中川酒店以外にも、世界的なレゲエカルチャーの伝道師がいる。彼、SHANDI-I(シャンディアイ)がその人だ。  
'70年頃、日本には学生運動があった、アメリカにはウッドストックがあった。同じように、ジャマイカにも反体制のムーヴメント「ラストファリズム」があった。後にルーサー・キングやマルコムXたちに繋が

中学の頃は単に心地よい音楽だった、ポップ・マリーが違う音になった。  
高校を卒業し、古着屋の「DIPLO」で働くようになった。当時デパートがあった詩の小路は、サブカルチャーのトップフォームで、そこには様々な人と音楽が集中していた。「田舎もんの僕としてはものすごいカルチャーショックやった」。後に寺町通にあった

本国ジャマイカでは廃れたサウンドシステムが、ロンドンではまだ生きていた。そこで出会ったのが「ABA-SHANTI」。毎年8月にロンドンで行われる、2日間200万人を動員すると言われる世界最大級のカーニバル「フェスティバル」NOTTINGHAM CARNIVALのキーパーソン。大御所も大御所、それこそ神様のような存在である。「心臓が飛び出て、腹が振れるような大音量で、ものすごいデジタルで古い音楽を



SHANDI-I シャンディアイ



る黒人解放運動の祖、マーカス・カーヴィは、「もうすぐアフリカに黒人の王が誕生するだろう」と予言した。それがエチオピアの皇帝・ハイレセラシエ一世。幼少時の名をラスタファリア・マコネンと言った。

「王の中の王、神の中の神、ユダ族直系の獅子王。それはキングソロモンの時代、エチオピアの女王がイスラエルに行ったときにできた子供たちの末裔にあたる。それが聖書の黙示録にあるんですよ。ジャマイカたちがエチオピアを崇めたのはそのためです。それが彼らの心の拠り所、アイデンティティになった。アフリカ回帰の願いが、それで現実味を帯びるんです」。

レゲエのルーツを解りやすく説明してくれる彼がミュージシャンになったこと。子供の頃にそれは解っていたのかもしれない。小学校時代、ピンクレディーや西条秀樹らの歌謡曲が全盛の頃、テレビではチビッコの物まね番組を観た彼は「オレの方が上手いわ」と思った。有言実行。地方でのオーディションを抜け、全国ネットで放映された物まね番組で、沢田研二の「勝手にしやがれ」を唄って賞を獲得した。ゲットした商品は「秀月の五月人形(笑)」。だがそれよりも、「オーケストラをバックに従えて唄うなんて普通の人にはないだろうし、生音の迫力は原体験として残ってますね」。だがその経験はほどなく、「ただの良いい想い出」になった。中学で野球、高校ではサッカーに夢中だった。「あまり素行が良い方では無かったですねえ(笑)」。ただ、音楽は好きだった。



「BLACK」[Cocoon]に転職。店長は現スピンズ社長・出路氏である。ユニオンジャックが強烈に匂うその店のバイヤーを始め、ハイス・ソサエティな英国よりも、スタンダードでゲットー・ライクなものも好んだ。ステイタスはNolan Westwoodより[Cavern]、[Dance]より[Dr.Martin] [Cakes]...。

ある時、スカバンドの「スペシャルズ」がカバーしている歌を聴くとオリジナルはレゲエであることを知る。その文化の根源は何だ？ 迫れば迫るほど、気持ちはどんどんジャマイカに傾倒していき、数ある情報網の中から手に入れたビデオに求めた景色があった。明日の生き方も解らない連中がひしめきながら、プロテスト的な時事ネタを唄っている。自分も素行の良いヤツじゃなかったし、学歴・肩書も嫌いだ。要するに「要するにスビーカーが積んである、大爆音のライブで、『コレや！』今まで見聞きしてきた中で、コレが一番リアルや！」と。全てがシンクロした。

「仕事で買い付けに行くにも、最初は『ロンドンかあ...。それよりジャマイカがきたいねんけどなあ...』と思ってましたけど(笑)」。だがロンドンにはジャマイカからの移民がいた。情報誌で探したクラブは「ラストマンばかりで、鳴っている曲はルーツとダブばかり」。英国ではジャマイカからの移民も、白人のプロレタリアートも虐げられて、彼らがひとつのソサエティになっていた。そのことに猛烈に感動し、歯止めが利かなくなっていた。

渡英を繰り返して出会ったもの。それはダブと、神のような存在。

「レゲエ」という大きなくくりの中で、「ダブ」というのは「手法」である。エコーエンバー、音楽に明るくない人には「ワンワンワン...」と延々エコーが続くあの音と言った方が解りやすいかもしれない。「野外でレゲエを大音量で鳴らして、いわゆるDJが『さあみんな踊ってくださいよー』と、そのエコーで言うてる。要はレコードのB面についてのカラオケに、その時代の時事ネタとかのMCを重ねるんです。そこで、みんなが踊っている。そういうイベントの方式が『サウンドシステム』ですな」。

サウンドシステムでやっている。イギリスの国有鉄道の高架下の真つ暗な倉庫でね。そこに小柄な彼は、黒人の大男を両サイドに従えて現れた。「ダブがすこいじゃなくて、そこに乗っけてくるメッセージがすこいんです。当時は英語なんか解らないけど、『世界平和』とか、シンボリックな英語は解るじゃないですか。とにかくガツンと打たれてね。仕事頑張つて、ロンドンに出張に行ければまたここに来れると(笑)」。

ロンドンに行く度に、「貴方との出会いがなければ今の自分もない。それぐらい人生観が変わった」、そんなメッセージと共に自分のバンドのテープを持参した。「言ってみればただのコアなファン(笑)」。後に自らのセレクトショップを開店、英国に買い付けに行くセレクトショップオーナーとしての仕事。そして先述のミュージシャンたちとステージに立つ仕事。ロンドンには二つの楽しみが待っていた。そして99年、遂に「本人と直接喋るには神々しすぎた」というほどだった「ABA-SHANTI」から「一緒にレコーディングをしないか？」というオファーが舞い込んだ。去る8月に行われた「ABA-SHANTI JAPAN TOUR 2005」にて、東洋人唯一の「FALASHA RECORDINGS」のファミリーとして全国6箇所全てに帯同するまでになった。

京都を愛する理由は人それぞれ。家も走る場所も、どこにも聖域だ。

当初は日本人であること、いや、自分が黒人でないことへのコンプレックスさえあった。だが彼らのメッセージは普遍的で、誰もがひとつの血で繋がっていると、「フッディ」でもムスリムでも、心を揺さぶられることとはあるだろう？」と言っている。「だから僕もそれを日本人として証明したい」。そして、全てのボーダーを越えて、ひとつに繋がっている世界。その世界の一角が京都だ。自分が20歳ぐらいの頃、京都には今の自分を形成する場があった。悩める時代だったが熱い若者がいて、格好良くしてくれる大人がいた。「それが今は『保守的』の一言になってる」。都であったというプライドがそうさせてるのかもしれないし、「京都という盆地の中で認められればOK」という狭い安

心感があるのかもしれない。生まれて育って、友達も家族もいる。京都という街を愛している理由はシンプルで、それだけだ。音楽中心で生きている自分にとって、自分が求める最高の環境は英国にある。「京都のことは任せ」と言う気は全くないが、自分は京都の文化をクリエイトしてはいけないと思う。だから「京都が最高の環境だ」と思う人に、京都を立派なクリエイティブな街にして欲しい。彼が英国に向けての同等しいプライドと熱意をもって、京都の文化を守っていくよりも、つくることを買って欲しいと思っっている。

新たなシングルを英国でリリースする。当地での活動も増えるだろう。既にリリースされている「INNA SANCTUARY」というナンバーで彼はこう繰り返す。「人種も宗教も忘れて踊ろう。オレにとつて教会でも、君にとつては思いっきり走れるフィールドかもしれないから」と、京都が聖域であることは君も僕も同じ。ただ、京都を思いっきり走るフィールドにしているなら、この歌はエールになる。そう言っているように思えるのだ。



RELEASE

「INNA SANCTUARY」1365円  
英国「FALASHA RECORDINGS」よりリリース。「ABA-SHANTI」のシンガーとしてのダブ・プレートが英国のヒットチューンとなり、初版プレスは3日でソールドアウトした。今も当地ではヘヴィローテーションで流されている。Strictly Vibes他、輸入レコード店などで発売中。

NEW 12inchシングル「REVELATION」1365円  
同じく「FALASHA RECORDINGS」レーベルより年内リリース予定。来年には1stアルバムも全世界に向けて、リリースが予定されている。

@WORLD[世界]

EVENT

11.27 SUN 21:00~  
LIFE ADORE 1st Anniversary Party  
& LIFE 8th Anniversary Party

NEW OPEN

11月3日、SHANDHの経営するセレクトショップ「Strictly Vibes」が移店、再オープン。

京都市中京区御幸町通三条上ル丸屋町317 たけうちビルF  
TEL 075・212・0719 / 12:00~20:00 / 無休  
http://www.vibes.jp

@Cabaret

EVENT

沖野修也  
11.18 FRI 22:00~「フューチャー・ジャズ喫茶」  
GUEST LIVE:吉澤はじめ  
GUEST VOCAL:RIA / DJ:沖野修也 (Kyoto Jazz Massive)

SHANDH  
11.19 SAT 23:00~「HAPPY BIRTHDAY BASH」  
DJ: SHANDH  
Bongo "TK" Fire (S.O.W.) / Cokki (Strictly Vibes)

屋敷豪太  
11.22 TUE 23:00~「GOTA Solo Release Party」  
DJ: 屋敷豪太 (Simply Red) / 牧野広志 (Park Cafe) / FUKAE